

P2~P5

「いいね！」な人や活動から NPO がわかるおはなし **New!**

誰もが楽しめる新しいスタイル
「横手ダーツ」誕生

P6

市民活動お役立ち情報

活動するための“お金”②「会費・寄付金」

P6

編集スタッフのつぶやき

今月の表紙「この遊びはなんでしょう？」

7月2日、湯沢市の飲食店での一コマ。床におかれた円形のボードには何やら数字のようなものが書かれ、そこに男性が先のとんがったものを落とそうとしています。一体何をしているところなのでしょう。

この飲食店、実はダーツ愛好者が集う「ダーツバー」と呼ばれているお店。床に置かれたボードの正体はダーツに使う的(ダーツボード)。男性が持っている先のとんがったものはダーツの矢です。「あれ？ダーツってこんな遊び方だったか？」と思っただけでみなさんはするどい！ダーツといえば、一般的には壁掛けの的に向かって、緩やかな放物線を描くように矢を投げることをイメージしませんか。でもこれは少し違いますね。この遊び方が生まれた背景には、様々なドラマが隠されていたのです。今月はこのお話をご紹介します！さっそく次のページへ！(「いいね！」な人や活動から NPO がわかるおはなし 横手ダーツ普及協会)





特別企画



「いいね！」な人・活動から NPOがわかるおはなし。

誰もが楽しめる新しいスタイル

「横手ダーツ」誕生

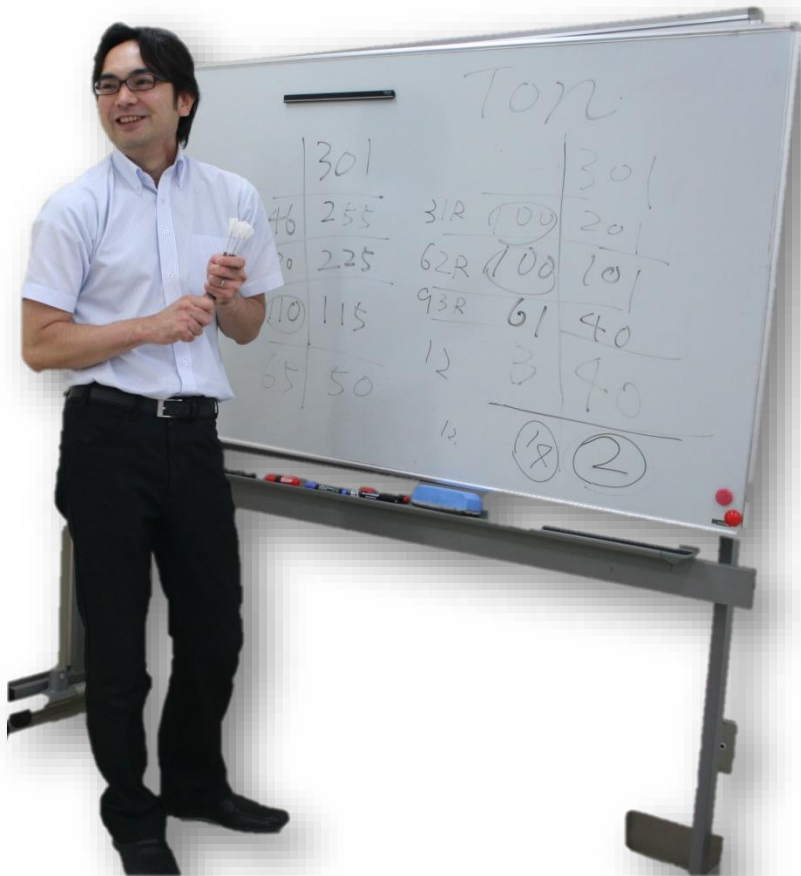
みなさんは「横手ダーツ」という言葉を聞いたことがありますか。壁に下げた円形の的に矢を放つゲームが「ダーツ」では「横手ダーツ」とは一体どんなものでしょうか。両者の違いはそのスタイル。横手ダーツは、的を床に置いて垂直に矢を落とします。老若男女、誰でもどんな人でも挑戦できるそのスタイルが、地域住民の交流と健康づくりに役立つのではないかと言われています。

このゲームの普及を目指して活動しているのが、平成25年4月に設立された横手ダーツ普及協会です。昨年は、地域で開催されたイベントやダーツバーで、イベント来場者やダーツ愛好者に横手ダーツを体験してもらい、その面白さを伝えてきました。今年度は、地域の高齢者サロンにも同様の活動を広げています。

横手ダーツの生みの親で、普及協会の代表を務める根路銘安博さんは、8年前の手術をきっかけに首から両肩にかけて運動障害を抱えました。はじめは体を動かすことさえ、難しかったそうですが、リハビリにそれまで趣味だったダーツを取り入れ、楽しみながら積極的に身体を動かそうとして

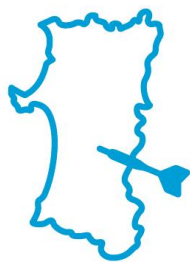
いる自分に気が付きました。また、ダーツをするときの肩や腕の曲げ伸ばし、姿勢の維持、指先に力を入れたり抜いたりする色々な動きを意識して行うことで、手術の影響で麻痺して難しくなったことも徐々にできるようになったといいます。

自身の経験を通じて、根路銘さんはダーツにも運動機能に与える刺激や効果があることを発見し、これが高齢者の健康づくりにも応用できると考えたのだそうです。その後、結婚して横手に移り住んだ時もダーツが根路銘さんを支えました。見ず知らずの土地でしたが、ダーツを通してすぐに仲間ができていったといいます。

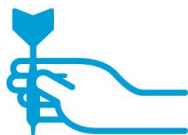




横手ダーツの由来 → → →



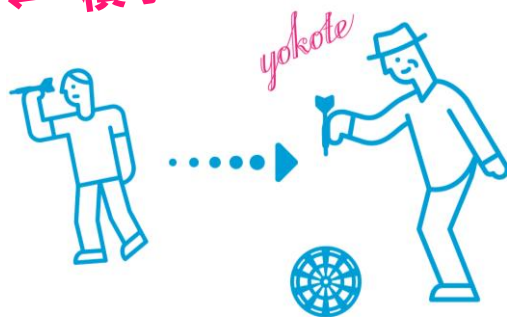
横手-YOKOTE-



「矢を持つ手を横に構える」と「横手生まれ」という2つの意味から、「横手ダーツ」と名付けた

← ← ← 横手ダーツの遊び方

必要な道具は、専用のダーツボード（的）とダーツ（矢）。ダーツボードを床にセットし、矢を垂直に落とす。ルールは世界共通のものを採用。矢は3本が1セット。一人3回、続けて矢を落とし、刺さった部分の数字を計算。得点をスコアボードに書き出す



手術や引越越しを通して、自分の生活に明るさをもたらしてくれたダーツの魅力をとくさんの人に伝えたいという想いが湧いてきた根路銘さん。地域の人たちの交流の場や高齢者の健康づくりにダーツを役立てたいと、誰もが楽しめる横手ダーツのスタイルを考え出しました。

横手ダーツの魅力は、従来のダーツより

も簡単で早く上達できること。子どもや高齢者、車いすの方でも気軽に参加でき、高得点を狙いやすいことが夢中になれる秘訣だといいます。根路銘さんは「いずれは横手ダーツの指導者資格制度を作りたい。生涯楽しめるゲームとして多くの人に普及できたらこんなに嬉しいことはありません」と目を輝かせて語りました。

横手ダーツの良いところ → → →



- ・ 矢を投げる力が要らないので、老若男女が楽しめる
- ・ 姿勢を良くして的を狙うことで体幹に良い運動になる
- ・ 的に刺さった矢を取ることで屈伸運動になる
- ・ 点数の計算は暗算で行うので頭の体操にもなる
- ・ 的をねらうことで集中力が養える
- ・ 夢中になれるのでストレス解消や充実感がある
- ・ 仲間と一緒に楽しめるので交流が深まる
- ・ 室内のちょっとしたスペースでできるので場所を選ばない
- ・ 数人のメンバーが集まるだけで盛り上がる など



密着



はじめの横手ダーツ!

6月、横手ダーツ普及協会は、横手市で住民の支え合い活動を行う、ふれ愛塾のサロンを訪れました。集まっていたのはよくサロンを利用する50〜70代の女性6人。全員ダーツは未経験のためか、初めはちよっぴり緊張気味でしたが、本格的なダーツの道具に触れて感動した様子。徐々に表情が柔らかくなりました。

まずは順番に一人3本の持ち矢を落とします。矢の羽が指に引っかかりまっすぐに落ちなかったり、狙った部分とは違うところに矢が刺さったりと、はじめは苦戦していたみなさん。しかし回数を重ねるうち



にすぐにコツをつかみ、サクッと矢が刺さる爽快感を覚えるようになったようです。数字を足したり掛けたりと、暗算をする頭もフル回転です。得点を伝えるときのドキドキも良い刺激になりました。

3人ずつに分かれて行ったチーム対抗戦は、この日一番の熱気で盛り上がりを見せました。自分のチームに順番が回ってくると、自分や仲間が落とす矢の刺さる先を見つめ、喜んだり悔しがったりする利用者のみなさん。チームで作戦を考えたり、得点の暗算を確かめ合ったりすることで、コミュニケーションと絆が深まったようです。





佐藤 真喜子さん

ダーツのことはこれまでよく知りませんでしたが、今日は本格的な道具に触れることができてなんだか嬉しくなりました。みんなで団体戦をしたのが楽しかったです。



ふれ愛塾代表 菊地 恵子さん

ちょっとしたスペースと道具があればできるので、サロンの活動にはもってこいです。横浜市全体に広がってサロンごとに交流戦ができれば楽しそうですね。



松井 キヨさん

楽しみながら集中できるのがいいですね。点数を競うことで意欲がわいて、次は何点を狙うぞ！と希望を持ってました。久しぶりに若さを取り戻したようです。手さえ動けばできることに感動しました。



東海林 晴子さん

足が悪くても椅子に座ってできるのがいいですね。落とすことに専念することで、集中力がつくので日頃の生活にも役立ちそうです。ぜひ貸し出しをしてもらってまたサロンでやりたいです。

やってみて、 どうでしたか？



横手ダーツ普及協会は、横手ダーツを通じて、地域の人たちの交流の場づくりや健康づくりを目指して活動しています。そのために、今後は横手ダーツを指導できる人を増やしていきたいと考えています。また、他のサロンや高齢者施設などを訪問して、どんなその良さを伝えていきたいとのこと。市内にあるサロン対抗の交流戦ができるくらいに、横手ダーツを楽しむ人たちを増やしたいと夢を膨らませます。

「こうして人とふれあいながら、少しずつダーツを覚えてもらえることが本当にうれしい。自分が一番充実しているように感じる瞬間です。私はずっとこのダーツを続けながら、たくさんの人たちとつながって生きていきたいです」と嬉しそうに話す根路銘さん。その姿に、近い将来、横手ダーツは地域の人たちの笑顔を生み出す身近なスポーツとして広がっていくだろうなと感じました。(高橋幸子)

●横手ダーツ普及協会

ねろめやすひろ
代表 根路銘安博さん
連絡先 TEL.090-1102-6044

●ふれ愛塾

代表 菊地 恵子さん
連絡先 TEL.070-5324-6052

サロン開催日 毎月第1~4月曜日(第5は休み)
地域の誰もが元気になることを目的とした「サロン」と呼ばれる交流の場づくり(寄りあい活動)と、買い物や通院支援など(支えあい活動)を行っている。サロンでは、手芸、健康体操、レクリエーションゲーム、ランチ会などを行っている。

THEMA



活動するための“お金”②
「会費・寄付金」

「ボランティア。興味はあるけれど、参加する時間はない」という方も少なくないと思います。そんな方でもボランティア活動に関わり、支える方法があることをご存知ですか。

例えば、応援したい団体にお金や物品を「寄付」する方法や、団体の会員になって日頃の活動を応援したり「会費」を納めたりする方法です。今回は、市民活動団体の5つの活動原資のうち、「会費」と「寄付金」について考えていきたいと思います。(奥ちひろ)

市民活動団体の財政

暮らしの中で困ったことは、自分だけでなく、誰にでも起こりうるみんなの困り事。みんなの“困った”を解決して、もっと暮らしやすい地域にしたい。

市民活動に関わる人たちは、そんな想いを持って様々な取り組みを行っています。

ところが、その財源は厳しい状況であることが多く、秋田県のNPO法人訪問調査報告書(平成24年度、208法人が回答)によると、一年間の決算額が1000万円に満たない団体は全体の63%。その中でも、100万円未満の団体が25%あったといいます。契約の主体となりえるNPO法人でさえ財政難を抱えているとすれば、法人格のないボランティアグループは尚更であることが想像されます。

市民活動団体の資金源のうち、確実な収入を見込むことができない「補助・助成金」「委託費」等に比べて、「会費」「寄付金」は団体独自の安定した財源であり、使い道の自由度も高いことから、これが活動のベースとなっている団体も少なくありません。

市民のみなさんからの共感や応援は、市民活動団体にとってとても心強い活動のエンジンになります。ぜひ、みなさんも何らかの形で、地域の市民活動に関わってみませんか。

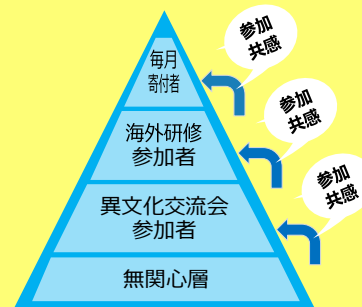
さらなる応援を得るために「ドナーピラミッド」を知ろう

市民活動団体のみなさんへ

市民活動団体にとって、活動への賛同者を増やすことは、活動の目的を達成するために重要なことです。応援者となる可能性のある人を発掘し、活動への関与を深めてもらうための考え方に「ドナーピラミッド」があります。

●ドナーピラミッド

団体を取り巻く様々な人を細分化して層に分け、それぞれの層に対してどのようなアプローチをすると関与を深めてもらうことができるか検討するもの。



国際理解に関する活動を行う団体の例

応援者となりうる人に活動に参加し、ステップアップしてもらうために、どのような受け皿が必要で、どのような取り組みをしなければならないのか考えやすくなります。

◆もっと知りたい方は

南部市民活動サポートセンター TEL.0182-33-7002

秋田県ボランティア・NPO活動ニュース県南版

ハンサン

2014年7月10日発行
7月号 VOL.93

発行：秋田県企画振興部地域活力創造課

〒010-8570 秋田市山王西四丁目1-1 TEL.018-860-1245

編集：特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター(南部市民活動サポートセンター)

〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

南部市民活動サポートセンター

【相談受付】月・火・水・金 9:00~18:00
土 9:00~17:00

【休館日】木曜日・年末年始(12/29~1/3)

〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

E-mail.ssc7002@luck.ocn.ne.jp

http://www.akita-kenmin.jp/hg030001



編集スタッフの VOL.03
つばやき

編集長

高橋 幸子

最近、自分のこれからの生き方について考えています。まだまだ若いと思っていたけれど気付いたら30代半ば…。20代はいろいろなことと興味を持ってあれこれ試行錯誤してきました。そして30代では、働き盛りと言われる40代50代もどう生きていくかを見据えて自分の進む道を決断し、ブレることなく貫いていくことが理想です。

有名な漢詩、論語。「子曰く、われ十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず…」中学生で丸暗記したこの詩が伝えることの奥深さも、今になって感じています。「三十にして立つ」。横手が二ツ普及協会の根路銘さんも30代で「自分の生きる道を定めて立ち上がった方だ」と感じます。その生き方、根底にある想いに深い共感を覚えました。